第1回 設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

日時：平成22年11月26日 13:00～15:00

場所：豊橋市民センター 6階多目的ホール

1. 開会

【事務局】 お待たせいたしました。定刻より少し早いですが、皆様おそろいになりましたので、ただいまより第1回設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場を開会いたしたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

会議に先立ちまして、私どものほうから、運営に関しまして2つほどお願いを申し上げます。

まず1点は、報道機関の皆様をお願いでございますが、カメラ等の撮影は、会議の運営の関係がございまして、私どもの整備局長のごあいさつまでとさせていただきますと思います。

それから2点目でございますが、報道機関の皆様、それから一般傍聴者の皆様は、受付のほうでこの運営の場の「傍聴に当たってのお願い」というものを配らせていただいております。どうかこのお願いに基づきまして議事のほうを進めてまいりますので、ご協力のほどをよろしく願い申し上げます。

それでは最初に、この会の主催者でございます中部地方整備局長の富田英治よりご挨拶をさせていただきたいと思っております。

2. 挨拶

【中部地方整備局長（富田英治）】 中部地方整備局長の富田でございます。

本日は、設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

既にご承知のとおりでございますけれども、現政権におきます、できるだけダムに頼らない治水という政策転換に伴いまして、全国136のダム事業のうち89事業が新たな基準に沿った検証を行う対象となったわけでございます。

中部地方の直轄ダムについても、設楽ダムを初め、新丸山ダム、戸草ダム、それか

ら木曾川水系連絡導水路、この4事業が対象になりまして、平成22年度予算については、新たな段階に入らず現段階を継続する、そういう必要最小限の予算となっているところでございます。

そうしまして、昨年12月でございますけれども、検証のための新たな基準づくりをするということで有識者会議、これは9人の委員からなる会議でございますが、これが組織されまして12回の議論が交わされてまいりました。

そしてこの議論を受けまして、今年9月27日でございますけれども、中間取りまとめがまとまりまして、翌日の9月28日に国土交通大臣から私、中部地方整備局長に対して、「個別のダムの検証に係る検討を、予断を持たずに行う」という指示がきたわけでございます。

本日は、設楽ダムの検証を行うために、私ども中部地方整備局が検討主体となりまして、愛知県さん、そして流域利水の関係市町さんを構成員とした検討の場を設けさせていただいたわけでございます。

後ほど事務局のほうから提案をさせていただきます検討内容の認識を深めていただきますとともに、忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたいと存じております。

検証は予断を持たず、慎重に行うことはもちろんでございますけれども、一方で設楽ダムは生活再建の事業を実施している最中でもございます。水没する場でいらっしゃる方の生活を左右する非常に重要な問題でもございます。できるだけすみやかに対応方針を取りまとめていきたいと思っているわけでございます。

お忙しいところ、貴重なお時間をいただきまことに申しわけございませんが、ぜひともご協力をいただきたいと思います。

簡単ですけれども、ご挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いたします。

【事務局】 ありがとうございます。

これより議事に入りたいと思います。

以降の進行は、河川部長の山根尚之が務めさせていただきます。

河川部長よろしくお願いたします。

3. 検証に係る検討の進め方について

【進行役（河川部長）】 河川部長の山根でございます。ここから議事の進行役を務

めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の議事次第に従いまして、3番目の「検証に係る検討の進め方について」、事務局から説明をお願いいたします。

なお、ご質問につきましては、各議事の区切りごとにお伺いをいたします。さらには、最後にもご質問ご意見を賜る時間をとらせていただいております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 座って説明をさせていただきます。

まず初めに、お手元の資料のご確認でございますけれども、「傍聴に当たってのお願い」という1枚紙、それから配付資料一覧、議事次第、それから検討の場の座席表、出席者名簿、資料1と書かれておりますA3の大きい資料、それから資料2、そして資料3。資料3の関係で一部見づらい部分がありますので、A3で大きくした「評価軸と評価の考え方」というA3の表が2枚。それですべての資料になっております。お手元に不足等ございませんでしょうか、不足等あれば、事務局のほうに申しつけていただければと思います。

では、中身に入らせていただきたいと思います。

まず、資料1のA3の大きい紙でございますが、「検証に係る検討の進め方について」、ご説明をさせていただきますと思います。

冒頭の局長の挨拶にもございましたとおり、9月28日に国土交通大臣からのダム検討の指示を受けまして、設楽ダムにおいて検討を進めていくということになりました。県と流域市町、整備局からなる検討の場、まさにこの場でございますが、これを設置して検討を実施していくということになっております。

資料1の点線で囲ってある部分、この部分がこの検討の場で構成員の皆様にご説明して見解をいただく内容ということで考えていただければと思っております。

まず、真ん中の左上の[オ]の検証対象ダム事業等の点検というところで、「基本計画等の作成又は変更から長期間が経過しているダム事業については、必要に応じ総事業費・堆砂計画・工期や過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等について詳細に点検を行う」ということから始めます。その後フローに従って、目的別の検討ということになります。

設楽ダムの場合は、洪水調節、新規利水、流水の正常な機能の維持の3つの目的を持っておりますので、3つの目的別に検討を進めていくということになります。

洪水調節の例で示してありますけれども、複数の治水対策案の立案というものから概略評価により治水対策案を抽出、これは2～5案を抽出します。最後に治水対策案を評価軸ごとに評価していくということになっております。

それから、新規利水、流水の正常な機能の維持についても、同じ進め方で検討していくこととなりますけれども、新規利水については、利水参画者の方がおられるということで、検討に入る前に参画継続意思と、それから開発量の確認、そして代替案の検討を要請することから始めていきます。洪水調節、新規利水、流水の正常な機能の維持、これらの目的ごとの評価の後に総合的な評価を行いまして、対応方針の原案というものを策定していくこととなります。ここまでが検討の場で行う範囲ということで考えていただければと思っております。

対応方針の原案に対しましては、既存の事業評価監視委員会というものからご意見をいただいて、対応方針（案）を決定いたします。その後、本省に検討結果を報告いたしまして、有識者会議からご意見をいただいて、最終的に本省により対応方針の決定ということになるわけでございます。

検証に係る検討の進め方ということでの説明は以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

【愛知県副知事（片桐正博）】 愛知県でございますが、ただいまの資料の説明に対するお尋ねということではございませんが、この会議に臨みます愛知県のスタンスをちょっと表明しておきたいと思っております。それから、1つお願いもあわせてさせていただきたいと思っております。

まず、設楽ダムにつきましては、私がここでいまさら申すまでもなく、三十有余年にわたって、大変ご地元にいるいろいろなご不安やご心配をおかけしながら、やっとこの地元の建設合意をいただくというところまできた段階で、今回のこういった検証作業に入るということになったわけでございますが、長年の地域における検討調整の結果、豊川下流域における洪水の防止であるとか、あるいは利水面では水道用水あるいはかんがいの確保ということで、これを達成していくにはダム建設が一番合理的な方法であるということで長年取り組んでまいりました。

その考え方は終始一貫をしているつもりで、この立場はいささかも揺るぐことなくまいっておりますし、今後もそういう考えであると思っております。

ここでお願いをしたいのは、県の立場としてはいま申し上げた考え方でおりますけれども、今回、国のダム事業に対する考え方の見直しによりまして、こういった検討の場が設けられることになりましたけれども、これにつきましては県としても検証に協力をして、検討の場でそのルールに基づいてしっかりとした考えを述べてまいりたいと、そういうつもりでおりますのでよろしくお願いしたいと思っております。

それからあわせて、最後に一つお願いでございますが、今後の進め方につきましては、設楽ダムにおきましてはすべていろいろなデータを最近のものでやっております。早期に検証の結果が得られるというふうを考えているところでございますので、検証の結果はできるだけ早く、予定として言われているところでは平成24年度の予算に反映されるというふうに伺っておりますけれども、確実にそういった形で検討の結果が、遅くとも24年度予算には反映されるように進めていただくことを、まず冒頭お願いをしておきたいと思っております。

【中部地方整備局長（富田英治）】 この設楽ダムの建設事業につきましては、いまお話がございましたように、地元の設楽町始め、この共同事業者でいらっしゃる愛知県、それから関係市町の皆様方に多大なご協力をいただいて、ここまで事業を進めてこられたというふう考えております。本当に感謝の気持ちでいっぱいであるということでございます。

いま片桐副知事からいただいたご意見につきましても、十分考慮をさせていただいて検証を進めてまいりたいと、このように考えておりますのでご協力をよろしく願います。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見ございますか。

【豊橋市長（佐原光一）】 検証の場ということで述べさせていただきます。

冒頭にご説明があった「予断を持たずに」という部分があったと思います。これまで「豊川の明日を考える流域委員会」等で具体的な数字等も持ちながら検討を進めてきたと思いますが、「予断を持たずに」ということは、そういった数値についてもまたゼロから考えるということなのか、それとも過去きちっと検証されたものは、それは正しいというか、基礎的なデータとして生かされていくということなのか、それによっては非常に大きな時間を使ってしまわなければ、検証はなかなか難しいと思うんですけども、そのあたりについてお聞かせいただきたいと思っております。

【事務局】 ご指摘の点でございますけれども、基本的にはこれまでの流域委員会の

議論等、整備計画で議論されてきたことを再度また点検をしながら、今回、本省で新たな中間取りまとめといった複数の代替案の考え方とか、それから代替案に対する評価の考え方というものが示されましたので、そういったものも踏まえて今後検討していくということで、基本的には整備計画策定時の議論など、過去に議論されたものは活かしながら、今回の検討の場でも進めていきたいというふうに思っております。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見ご質問よろしいですか。

4. 規約について

【進行役（河川部長）】 それでは、次の4番目の議事でございます。「規約について」、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、資料2を見ていただきたいと思います。「設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場規約」ということで、読み上げさせていただきます。

名称、第1条「本会は、『設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場』と称する」。

目的、第2条「検討の場は、検討主体による設楽ダムの検証に係る検討を進めるに当たり、『ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目』に基づき、検討主体と関係地方公共団体において相互の立場を理解しつつ、検討内容の認識を深めることを目的とする」。

検討主体、第3条「検討主体とは、国土交通省中部地方整備局をいう」。

2「検討主体は、実施要領細目に基づき、設楽ダム建設事業の検証に係る検討を行うものであり、検討の場の設置・運営、検討資料の作成、情報公開、主要な段階でのパブリックコメントの実施、学識経験を有する者・関係住民・関係地方公共団体の長・関係利水者からの意見聴取等を行い、対応方針の原案を作成する」。

検討の場、第4条「検討の場は、別紙で構成する」ということで、ページをめくっていただきまして、別紙のところの構成員でございますが、ここにいらっしゃる愛知県副知事、豊橋市長、豊川市長、蒲郡市長、新城市長、田原市長、設楽町長、それから検討主体として中部地方整備局長、河川部長でございます。

戻りまして、第4条の2「検討主体は、検討の場を招集し議題の提案をするとともに、検討主体の行う検討内容の説明を行う」。

3 「検討の場の構成員は、検討の場において検討主体が示した内容に対する見解を述べる」。

4 「検討の場の構成員は、検討の場の開催を検討主体に要請することができる」と定まっております。

情報公開、第5条「検討の場は、原則公開とし、検討の場の資料等については、会議終了後に公開する。ただし、稀少野生動植物種の生息場所等を示す資料など、公開することが適切でない資料等については、検討の場の構成員の過半数以上の了解を得て非公開とすることができる」。

事務局、第6条「検討の場の事務局は、国土交通省中部地方整備局に置く」。

規約の改正、第7条「この規約を改正する必要があると認められるときは、検討の場で協議する」。

最後にその他、第8条「この規約に定めるもののほか、検討の場の運営に関し必要な事項は、検討の場で協議する」ということになっております。

附則のところ、もしここでこれで了承ということであれば、本日から施行するという形になります。

規約につきましては以上でございます。

【進行役（河川部長）】 規約のご説明をさせていただきました。

ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

[なしの声あり]

【進行役（河川部長）】 それでは、本日付けでこの規約の「案」を外させていただきます。本日から施行ということで、今後はこの規約に基づき、本検討の場を進めていきたいと思っております。

5. 豊川流域の概要等について

【進行役（河川部長）】 それでは次に、検討の具体的な内容の説明に入りたいと思いますが、もう今日ご出席の構成員の皆様方は十分ご承知のことだと思っておりますが、第1回目の検討の場ということでございますので、豊川の治水の現状、利水の現状等につきまして、簡潔にご説明をさせていただきたいと思っております。

議事の5番目でございます。「豊川流域の概要等について」、事務局から説明をいたします。

【事務局】 資料の3を見ていただきたいと思います。開いていただきまして3ページですが、「豊川流域の概要等について」ということをご説明をさせていただきたいと思います。

まず、豊川流域及び河川の概要についてですが、ここからは具体的な検討に入る前段階の整理ということで、豊川流域の概略を説明させていただきます。ここにいらっしゃるメンバーの方々は、もう既によくご存じの内容かとは思いますが、共通の認識を深めるという意味で、少しだけ時間をいただきまして説明をさせていただきます。

まず豊川ですが、その源は愛知県の設定楽町の段戸山に発し、山間渓谷を流れ、新城市で宇連川と合流、それから豊川放水路を分派した後に豊橋市内を流れて三河湾に注ぐ延長77キロ、流域面積724平方キロメートルの一級河川でございます。

東三河の地域には、中心となる豊橋市を始めとする3市1町に約59万人の方々が生活されており、人口は下流部に集中しております。

それから、流域の年平均降水量としましては、山間部で2,400ミリ、平野部では1,800ミリということで、山間部に多く雨が降るといった地域でございます。

豊川の中間流域には、河畔林など豊かな自然が残っており、それから魚類、鳥類等、多くの動植物が生息しているという特徴がございます。

豊川の大きな特徴といたしましては、農業用水として使われているということで、流域面積に対して2倍という広範囲に水を供給して、豊川の水と温暖な気候の恵みを受け、野菜とか果物、園芸作物などの農業が盛んに行われて、全国でトップレベルということになっています。

それから、三河港周辺の臨海工業地帯では、自動車産業を中心にさまざまな工業生産を行っているところでございます。

次に5ページでございます。豊川の治水と利水の歴史についてということで、豊川ではこれまで幾度も洪水による被害というのがありました。放水路が完成してからも、戦後最大の洪水といたしまして記録された昭和44年8月の洪水では、7棟の家屋が流れて、919棟もの家が半壊、床上浸水をするといったような被害を被るなど、過去から尊い人命や財産を失ってきたという歴史がございます。昭和34年から平成20年までの49年間に13回、単純平均してみると約4年に1回の割合で洪水被害を受けてい

る地域ということでございます。

6 ページでございます。豊川の渇水の歴史は、毎年のように渇水により取水制限が行われているという現状がございます。また、河川の水利用が盛んということで、河川の流量が減ることに起因します瀬切れが慢性的に発生しているという厳しい状況でございます。近年厳しい渇水となりました平成元年、平成6年には、アユの^{へいし}斃死まで発生しているという非常に厳しい状況でございます。

また、豊川の水は東三河だけでなく、静岡県湖西地域の水利用にもこたえてきたということでございます。水源は宇連ダム、天竜導水、それから佐久間導水に加えまして、大島ダムが完成しています。これによりまして渇水は改善されつつありますが、最近では平成17年の6月から8月にかけての渇水が発生しまして、河川環境の改善とか、既得用水の安定化など、流水の正常な機能の維持は十分とは言えず、ひとたび渇水となれば、広い地域で自然環境に大きな変動が生ずるということがございます。

7 ページでございます。ここからが豊川水系の河川整備基本方針、基本計画、既存の計画の説明になります。まず、豊川水系の河川整備基本方針の目標ということでご紹介させていただきます。

平成11年に策定されました豊川の将来目標となります、豊川水系河川整備基本方針の目標についてご説明いたします。(1)のところですが、これは治水の目標ですが、基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項ということで、基本高水はピーク流量、石田で7,100トンということで、うち洪水調節施設で3,000トン、河道で4,100トンということで目標を定めております。

次に、環境に関する目標ですが、(4)のところを見ていただきますと、主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項ということで、牟呂松原頭首工の直下流地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量ということで、おおむね5トンということで目標を定めているところでございます。

次に8 ページでございます。次に、その方針に基づく豊川水系の河川整備計画の目標ということでご紹介させていただきます。平成13年に作成された豊川のおおむね30年間に実施する河川整備計画の目標について説明させていただきます。

豊川のめざす川づくりとして、治水、利水、それから環境の3点から策定されているということでございます。整備計画の策定に当たりましては、「豊川の明日を考え

る流域委員会」を設置いたしまして、学識者の意見を聞き、また関係市町12会場で意見交換を行って、地域の皆様から意見を求めまして計画に反映したという経緯がございます。

9ページ目でございます。具体的な整備計画の目標ということで、この資料に載せていただいております。まず治水の関係ですが、洪水、高潮等による災害の発生の防止、または軽減に関する目標ということでは、戦後最大流量となりました昭和44年8月の洪水が再来した場合の水位を、ほぼ全川で計画高水位以下に低下させるということが目標になっております。それからまた、霞堤地区の浸水被害を軽減させるということも目標としてあげられております。

今回の検証の場の検討ということでは、この上記の計画目標値が治水でいうところの代替案の基本ということになってきます。

同じように、河川環境の整備と保全に関する目標というところでは、豊川の特徴であります河道内の樹木群、それから砂州とか瀬、淵などの河川環境の適正な保全に努めるということを目指してあげております。

10ページでございます。河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標ということでは、まず渇水時における河川環境の回復を図るということで、牟呂松原頭首工地点で5トン、それから大野頭首工地点で1.3トン、寒狭川頭首工地点で3トンの制限流量というのを設定いたしまして、先行した水利用により失われた河川環境を取り戻すことができるということになっております。

これは先ほどもお話ししましたが、今回の検証の場の検討では、この計画目標が利水、それから流水の正常な機能の維持の代替案の基本ということになっております。

11ページでございます。豊川水系の河川整備計画の基本的な考え方ということでご説明いたします。洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項ということで幾つかあげております。整備計画の3つの目標、治水・利水・環境、これが調和されるよう総合的な視点で河川整備を推進する。

それから、堤防を一部さげるという引堤による対策は、本川の下流の部分で整備が進んでいるということで、新たに家屋移転の伴う引堤というのは現実的ではないというようなことで、最小限の伐採、それから低水路拡幅を実施するとともに、設楽ダム建設をあわせて行って、所要の水位低下を図るというような結論になっております。それで、潜在の植生等については、環境を損なわない範囲の部分的な除去をして豊川

らしさを具現する計画ということで位置づけられております。

次に12ページでございます。河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項ということでご紹介しますと、渇水時における河川流量の増加、それから既得用水の取水の安定化につきましては、実効の確実性、それから社会的な影響を考慮しまして、流況安定施設として設楽ダムを建設すること、それから異常渇水時は河川管理者と利水者の相互の情報交換を行いまして連携を強化することとしております。

13ページでございます。河川環境の整備と保全に関する事項ということで、良好な河川環境の回復や形成などのため、河川環境の整備と保全に努める。それから、河川の整備に際しては、必要に応じて環境調査をやりまして、学識経験者等の意見を聞きながら必要な対策を講じて、河川環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮することということでございます。

豊川の特徴といたしまして、霞堤というものが昔からありまして、豊川流域の方々はこの霞堤とともに生活されてきたわけですが、14ページでございますが、豊川における霞堤対策についてご説明いたします。

豊川の霞堤の起源というのは江戸時代からあるということでございます。昭和40年の豊川放水路の完成にあわせまして、右岸側のほうの4つが締め切られまして、さらに平成8年に右岸側の東^{とうじょう}上霞堤が締め切られた。現在は、左岸側の金沢、加茂、^{げじょう}下条、^{うしかわ}牛川というところの4つが残っているという状況でございます。

整備計画では、金沢、加茂、下条に完成堤ではない、一部低くしたような暫定的な堤防をつくるということが位置づけられております。それで牛川の霞堤は締め切るという計画になっております。整備計画上は、3つの霞堤の地区の浸水被害の軽減を目標としておりまして、対策案でもその機能を代替できることが必要ということになってきます。

ここまでの河川の基本方針、整備計画のご説明でございます。

ここからは、まず15ページでございますが、豊川水系における水資源開発基本計画の概要についてご説明したいと思います。

水資源開発の基本計画のもととなります水資源開発促進法に基づきまして、国土交通大臣が産業の発展、それから人口の増加に伴い、広域的な用水対策を実施する必要のある水系を水資源開発水系として指定しまして、その水資源開発水系においては、水資源開発基本計画、通称「フルプラン」というものを作成することにしております。

豊川におきましては、平成18年2月に閣議決定されました。豊川における水資源開発基本計画というのは、都市用水の需要は愛知県、農業用水の需要は農林水産省が今後の水需要の見通しから需要量を想定しまして、その需要量に基づいて近年20年で2番目の渇水を対象に、対象施設で供給可能量を評価して安定的に供給できる計画となっているところでございます。

次に16ページ、17ページでございますが、設楽ダム建設事業の環境影響評価ということでご紹介したいと思います。

平成19年の6月に設楽ダム建設事業の環境影響評価書というものを公告、縦覧、そして現在は、評価書に基づいて環境保全措置、環境保全措置と併せて実施する内容に即した配慮事項及び事後調査をやっているという状況でございます。

17ページは、設楽ダム建設事業の環境影響評価の項目及び結果を示しております。

18ページ以降でございます。ここからは設楽ダム事業そのもののご説明ということで、設楽ダムの目的等ということでご説明いたします。

19ページでございます。設楽ダムの目的等についてご説明します。ここに書いてありますとおり、設楽ダムの目的は洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、水道という4つの目的でございます。

洪水調節の目的につきましては、大量の雨が一度に豊川に流れ出さないように洪水を調節する役割を持っているということでございます。

流水の正常な機能の維持として、豊川で発生している渇水につきまして、設楽ダムにより貯留している水を使用することによりまして、10年に一度くらいの割合で起こる渇水時にも一定量の水を流すことができるように計画しております。

それから、河川の流量を一定にすることによりまして、流量が減ることによって生じていた塩害等に効果が期待できるということでございます。

それから、河川に一定量の水が流れるということは、水の流れを清潔に維持し、安定して川から取水することができるだけでなく、川の生態系の保全とか、美しい景観を守ることにもつながるということでございます。

水道用水、それからかんがいとして新たな水資源の開発によりまして、既設の豊川総合用水施設と取水施設を総合的に運用して、農業用水、水道用水の安定的な供給ができるようになるということでございます。

ダムの諸元については右下に書いておりますが、堤高129m、それから総貯水容量

として9,800万トンということでございます。

20ページでございます。設楽ダム事業の経緯についてご説明いたします。

昭和53年の実施計画調査以降、平成2年に先ほど申しましたフルプランが閣議決定されました。11年に河川整備基本方針、13年に河川整備計画が策定され、20年にダムの基本計画というものができまして、こういった形で法定計画をすべて終わっているということでございます。それで、平成21年の2月に損失補償基準の妥結、ダム建設の同意について調印ということでございます。

21ページでございます。設楽ダム事業の進捗状況ということでございます。平成21年2月5日の補償基準妥結の後に、用地の取得、それから現道拡幅工事、環境アセスメントに係る保全措置等に必要な調査を実施してきております。

用地取得につきましては、家屋移転が伴う124世帯のうちの16世帯の方々について実施済みでございます。これは22年の3月末時点でございます。ダムの検証の段階としましては生活再建の段階ということで、次の転流工の段階へはこの検証が終了するまでは進まないこととされております。

長くなりましたが、以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

それでは、後ほど最後にもご意見ご質問をいただく時間をとっておりますので、事務局からの説明を続けさせていただきたいと思っております。

6. 設楽ダム建設事業への利水参画継続の意思の確認等について

【進行役（河川部長）】 本日の検証作業の着手に先立ちまして、中部地方整備局長より、設楽ダム建設事業への利水参画意思の確認を愛知県知事宛にさせていただいております。

議事の6番でございますが、「設楽ダム建設事業への利水参画継続の意思の確認等について」、事務局から説明をさせていただきます。

【事務局】 資料の22ページ以降でございます。「設楽ダム建設事業への利水参画継続の意思の確認等について」ということでご説明いたします。

23ページを見ていただきますと、そこに愛知県知事より回答ということで載っております。ダムの検証における新規利水の観点からの検討に当たりまして、愛知県さん

に対しまして、ダム事業参画継続の意思、それから必要な開発量を事前にお聞きしております。愛知県さんのほうから参画継続の意思はあります、それから水道用水とかんがいの必要な開発量は表のとおりで、現開発量でご回答をいただいているということでご紹介させていただきます。

簡単ではございますが、以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、何かご意見ご質問ございますか。

【愛知県副知事（片桐正博）】 いまご紹介いただきましたように、愛知県から利水に関しましてこういった回答をさせていただいておりますけれども、この内容は従来からの数字と当然同じものでございます。この利水計画は、18年ですか、国が作成されましたフルプランに基づくものであるということを十分踏まえた形で、今後の検討をお進めいただきたいというふうに思います。

以上です。

【事務局】 それでは事務局のほうからお答えさせていただきます。

先ほど副知事が言われましたように、フルプランは関係機関等から提出された需要量に基づいて国で策定したものでございまして、今後は関係機関と調整しながら検討を進めていきたいというふうに考えております。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見ご質問等ございますか。

7. 複数の対策案の考え方について

【進行役（河川部長）】 今後、治水・新規利水・流水の正常な機能の維持の観点から、複数の対策案を検討するという作業が始まるわけでございますが、その考え方につきまして、議事の7番でございますが、「複数の対策案の考え方について」、事務局から説明をさせていただきます。

【事務局】 資料の24ページ以降になります。25ページですが、中間取りまとめで整理されました複数の治水対策の立案の考え方について、ご説明させていただきます。

26ページでございます。まずダムでございます。ダムは、ご承知のとおり河川を横過して、もっぱら流水を貯留する目的で築造される構造物になっておりまして、現行の治水計画で想定している程度の大きさの洪水に対する効果といたしまして、河道のピーク流量を低減させるという効果がありまして、効果の発現というのはダムの下流

部になるという治水対策であります。

27ページでございます。ダムの有効活用ということでございます。ダムの有効活用につきましては、既存のダムのかさ上げ、それから放流する設備の改造、利水容量の買い上げなどによりまして、洪水調節能力を増強、それから効率化させるということでございます。治水上の効果といたしまして、河道のピーク流量を低減させるという効果がございまして、効果が発現するのはダムの下流となっております。

28ページでございます。遊水池等ということでございます。遊水池につきましては、河川に沿った地域での洪水流量の一部を貯め込みまして、洪水調節を行う施設でございます。治水上の効果としましては、河道のピーク流量を低減させる効果ということでありまして、効果が発現するのは遊水池等の下流部分となっております。

29ページでございます。放水路でございます。豊川にも放水路がございしますが、放水路につきましては、河川の途中から分岐する新川を開削しまして、直接海とかほかの河川、それから当該河川の下流に流すという水路でございます。治水上の効果としては、河道のピークの流量を低減させる効果がありまして、効果が発現するのは分流させた地点の下流側ということになります。

次に30ページでございます。河道の掘削でございます。河道の掘削によりまして河川の流下断面積を拡大しまして、河道の流下能力を向上させるというものでございます。治水上の効果としては、河道の流下する能力を向上させる効果がありまして、効果が発現する場所は実施対策箇所の付近であります。ただ、ひとたび土砂が堆積すると効果が低減するといったことや、掘削残土の運搬先の確保といったようなところが課題となっております。

31ページでございます。引堤でございます。引堤は堤防間の流下断面積を増大させるために、堤内地側に堤防を新築しまして、旧堤防を撤去するということであります。治水上の効果としては、河道の流下能力を向上させるという効果、それから効果が発現する場所というのは対策実施箇所になります。なお、市街地等で引堤を行う場合は、多大な家屋移転等、それから多くの補償が発生するというところでございます。

32ページでございます。堤防のかさ上げでございます。堤防のかさ上げは堤防の高さを上げることによりまして、川の流下能力を向上させるということであります。治水上の効果としましては、河道の流下能力を向上させるということで、効果が発現する場所は、先ほどと同じで対策実施の箇所付近となります。ただ一方で、かさ上げを

行う場合は、地盤を含めた堤防の強度、それから安全性について照査が必要になるとともに、水位の上昇によりまして、仮に決壊した場合にはより多くの被害が堤内地に出てくるというような問題がございます。

33ページでございます。河道内の樹木伐採でございます。河道内の樹木伐採につきましては、樹木林が繁茂している場合に、それを伐採することによりまして河道の流下能力を向上させるものでございます。治水上の効果としては、河道の流下能力が上がるという効果、それから効果が発現する場所は対策をしたところでございます。なお、樹木についてはまた生えてくるということで、再度繁茂してしまうと効果が低下してしまうという問題がございます。

34ページでございます。決壊しない堤防・決壊しづらい堤防でございます。計画高水位以上の流水に対しまして、決壊しない、または急激に決壊しない構造の堤防ということでございます。しかしながら、一方で、技術的に確立されていないということがございまして、仮に現行の計画高水位以上でも決壊しない技術が確立されれば、河道の流下能力を向上させることができるということでもあります。なお、長大な堤防につきましては、経済的、社会的な課題を解決しなければいけないということがありますとともに、今後の調査研究が必要な対策案になっております。

35ページでございます。高規格堤防でございます。通常堤防よりも堤内地側の堤防幅が非常に広い堤防のことをいいます。なお、河道の流下能力向上を計画上見込んでおらず、全区間の整備が完了すれば、結果的に計画洪水流量以上の流量が流下することになります。効果が発現する場所は対策実施箇所付近でございます。

36ページでございます。排水機場でございます。排水機場につきましては、自然流下排水が困難な地盤の低い地域におきまして、堤防を越えて強制的に内水を排水するためのポンプを持った施設ということになります。本川河道のピーク流量を下げるといったこととか、流下能力を向上させることには寄与しないということでございます。むしろ、本川のほうの水位が高いときに排水すれば、かえって本川水を増加させるという危険性が高まるという問題がございます。

37ページでございます。雨水貯留施設、それから雨水浸透施設でございます。都市部において、保水機能の維持のために雨水を貯留するか浸透させるために設けられる施設ということでございます。現状では、市街化が進んだ中小河川流域で実施されております。治水上の効果といたしまして、地形とか土地利用の状況等によって、河道

のピーク流量を低減させる場合があります。効果の発現する場所は、対策実施箇所の下流でございます。

38ページでございます。遊水機能を有する土地の保全ということでございます。川に隣接して洪水時に河川水があふれるか、または逆流して洪水の一部を貯めて、自然に洪水を調節する作用を持っている池、湿原地等のことをいいます。治水上の効果といたしましては、河川とか周辺の土地の地形等によって、河道のピーク流量を低減させる場合があります。効果の発現する場所は、遊水機能を有する土地の下流部ということになります。なお、恒久的な対策として計画上見込む場合には、その土地所有者に対する補償等が課題ということになってきます。

39ページでございます。部分的に低い堤防の存置ということでございます。下流の氾濫防止等のために、通常の堤防よりも部分的に高さを低くしておく堤防のことで、洗堰とか野越しと呼ばれる場合があります。治水上の効果といたしましては、越流させる部分の形状とか地形等によりまして、河道のピークの流量を減らすという場合があります。効果が発現する場所は対策実施箇所の下流側になります。なお、これについても恒久的な対策として計画上見込む場合には、土地所有者に対する補償等が課題ということになります。

40ページでございます。霞堤の存置でございます。霞堤は急流河川において比較的多い不連続堤防ということでございます。上流部の堤防の決壊等による氾濫流を河道に戻す、それから洪水の一部を一時的に貯留するなどといった効果がございます。河川の勾配とか霞堤の形状等によりまして、河道のピークの流量を低減させる場合があります。効果が発現する場所は、実施対策箇所の下流側になります。皆さんご存知のとおり、豊川にも霞堤がございますけれども、霞堤の中には多数の家屋等が立地してまして、洪水時にはたびたび浸水被害が発生するということがございます。

41ページでございます。輪中堤でございます。ある特定の区域を洪水の氾濫から防御するために、その周囲を囲んで設けられた堤防でございます。小集落を防御するためには効率的な場合がございますが、日常的な集落外との出入りに支障を来す場合があるということでございます。効果が発現する場所は輪中堤の中ですけれども、当該の方策そのものに、川の下流部のピーク流量を減らしたりとか、流下能力を増やしたりする機能はありません。

42ページでございます。二線堤でございます。本堤の背後の堤内地に増築されてい

まして、控え堤、二番堤とも呼ばれております。万一本堤が決壊した場合に、洪水氾濫の拡大を防止するものでありまして、効果が発現する場所は対策実施箇所ですけれども、当該方策そのものに、先ほどと同じように下流の河道のピーク流量を減らしたり、流下能力を上げたりするような機能はございません。

43ページでございます。樹林帯等でございます。堤防の治水上の機能を維持増進する、または洪水を緩和するというような目的のために、堤内の土地に堤防に沿って設置された帯状の樹林のことをいいます。河道のピーク流量を低減させたり、流下能力を向上させたりする機能はありませんけれども、越流したときに、堤防の安全性を向上させたり、堤防の決壊時の決壊部分の拡大抑制等の機能を持っておりまして、このような機能が発現する場所は対策実施箇所となっております。

44ページでございます。宅地のかさ上げ、ピロティ建築等につきましては、盛土して宅地の地盤高を高くしたり、それから建築構造を工夫することによりまして、浸水被害の抑制等を図る方策となっております。効果が出てくる場所は、かさ上げ箇所やピロティ化した住宅ですけれども、当該方策そのものに河道のピークの流量を減らしたり、流下能力を向上させたりする機能はありません。

45ページでございます。土地利用規制でございます。浸水頻度とか、それから浸水のおそれが高い地域において、土地利用の規制、誘導によって被害を抑制する対策でございます。建築基準法による災害危険区域の設定等があります。土地利用の規制によりまして現況を維持することで、浸水頻度、それから浸水のおそれが高い地域への現状以上の資産集中を抑制することが可能になるということでございます。効果が発現する場所は規制された土地になりますけれども、当該方策そのものに河道のピーク流量を減らしたり、流下能力を上げるといったような機能はありません。

46ページでございます。水田等の保全でございます。水田等の保全につきましては、雨を一時貯留したり、地下に浸透させたりするという水田の機能を保全するというものでございます。治水計画は、一般的に水田を含む現況の土地利用のもとで、降雨が河川に流出することを前提として策定されておりますが、現況の水田の保全そのものに下流の河道のピークの流量を減らしたり、流下能力を向上させたりするという機能はないということでありまして。治水上の機能を現状より向上させるためには、いろいろな措置が必要となるということですが、効果の発現する場所は水田等の下流部となります。

47ページでございます。森林の保全でございます。森林の保全につきましては、主に森林の土壌の働きにより、雨水を地中に浸透させまして、ゆっくり流出させるという森林の機能を保全するということになっております。森林面積を増加させる場合や、顕著な地表流の発生が見られるなど、荒廃した森林を良好な森林に誘導した場合に、洪水流出を低下させる可能性がございます。しかし、一般の森林では、森林に手を入れることによる流出抑制機能の改善というのは、森林土壌がより健全な状態に変化するのに相当な年数を要するという事など、不確定な要素が大きいということで、定量的な評価は困難であるというような課題もございます。

48ページでございます。洪水の予測、情報の提供等でございます。降雨は自然現象でございます。現状の安全度を大きく上回るような洪水や、計画で想定しているレベルの洪水を大きく上回るような洪水が発生する可能性がございます。その際に、住民が的確で安全に避難できるよう、洪水の予測や情報の提供等を行って被害の軽減を図ることは重要な方策であると考えております。氾濫した区域におきまして、洪水発生時の危機管理に対する対策として、人命など人的被害の軽減を図ることは可能ですが、一般的に家屋等の資産の被害軽減を図ることはできません。それから、下流の河道のピークの流量を減らしたり、流下能力を向上させる機能はありません。

49ページでございます。水害保険等でございます。家屋、家財の資産につきまして、水害に備えるための損害保険ということで、一般的に日本では、民間の総合型の火災保険の中で水害による損害を補償しているということでございます。なお、下流の河道のピークの流量を減らしたり、流下能力を向上させる機能はありません。氾濫したときにおいて、個人とか個別の土地等の被害軽減を図る対策として、水害の被害額の補填が可能となるということでございます。

50ページでございます。50ページにつきましては、ちょっと文字が小さいものから別紙を配っております。別紙2「評価軸と評価の考え方（洪水調節の例）」というのを見ていただきたいと思います。

こちらのほうが中間取りまとめで示された評価軸と評価の考え方ということになっております。ただいまご説明いたしました26の治水の方策、これを組み合わせまして複数の治水の対策案を立案して、河川とか流域の特性に応じて、安全度、コスト、実現性など、7つの項目について評価を実施していくということになっております。

ちょっと長くなりましたけれども、以上でございます。

【事務局】 続きまして、新規利水と流水の正常な機能の維持の代替案について、ご説明させていただきます。

まず、ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目に記載のあります13の代替案と検討対象等ダム対策の計14の案について、イメージや図面をもとに一般的な考え方を説明させていただきたいと思っております。なお、流水の正常な機能の維持の代替案につきましては、再評価実施要領細目に「検討に当たっては、必要に応じ利水代替案の関係部分を参考にする」と記載されていることから、今回説明する代替案を参考に検討することとなりますので、よろしく願いいたします。

まずダムでございます。これにつきましては、皆さんご承知のことと思っておりますので、次に飛ばさせていただきます。

それから、河道外貯留施設でございます。これは河川区域外に河川水を引き込み、貯水池に水をためる方策でございます。豊川水系の場合、既に水機構の管理している万場調整池や大原調整池などがこれに当たります。これらのほかに新たに調整池をつくることにより水を確保します。

次はダムの再開発でございます。既設のダムをかさ上げしたり、貯水池を掘削することにより、新たに水を確保する方策でございます。

他用途ダム容量の買い上げでございます。これは既存のダムにおける発電ダムの他用途の利水容量を買い上げることにより、新たに水を確保する方策でございます。豊川の場合、発電ダムの他用途容量を持っている施設がないことから、代替案にはなり得ないと考えております。

水系間導水でございます。河川と河川を導水管でつなぎ、水を送る方策でございます。豊川の場合、既に佐久間導水路や大入、振草導水路により、天竜川水系より豊川へ毎年導水されております。水系間導水をするためには、導水する側の河川水に余裕がないと実現できない方策であり、計画として位置づけるためには、その水源の関係者すべての同意を得る必要があるため、ダムと比べると全国的にも利用は余り多くありません。

地下水取水でございます。新たに井戸を掘って地下水を確保する方策でございます。この方策は、地下水の低下や地盤沈下を引き起こす可能性が高いため、一部条例等で規制されることもございます。

ため池でございます。豊川の場合、ため池は既に受益地内に多数存在し、多くは農

業用水に活用されています。ただし、近年は生活排水等の流入による水質悪化から、ため池の利用可能量は減少しております。豊川では、地区内に降った雨をため池にため込むことも既に見込まれており、もともと高度な水利用がなされている事実がございます。

海水の淡水化でございます。海水をくみ上げて塩分を除去するための施設を設置し、水を確保する方策でございます。この方策は、水源確保が非常に困難な地域に活用される方策で、ランニングコストも高いため、全国的にも例が少ない方策でございます。

水源林の保全でございます。間伐などの森林管理によって水源林の保全を図り、山の保水力を上げることで河川水の安定化を期待する方策でございます。この水源の保全は、効果をあらかじめ定量的に見込むことはできないということでございます。

ダム使用权等の振替でございます。まだ水利権が認められておらず、ダムを使用する権利が与えられていない水を振り替えることにより、水を確保する方策でございます。豊川の場合は、すべての水利権が発生しており、水利権が付与されていないダム使用权等がないことから、代替にはならない方策でございます。

既得水利の合理化・転用でございます。一例として、既得の用水路における漏水対策や、取水施設を改良すること等で安定的な水利用が図られ、用水の使用量も減量でき、その減量した水を活用する方策でございます。

渇水調整の強化でございます。河川の水を利用している関係者が、互譲の精神を持って協議を行う場がこれらの渇水調整協議会です。水源の状況を迅速に把握し、すみやかに協議会の招集を図ることにより、危機的状況を回避します。この方策も、気象状況や利用者の意向に大きく左右されるため、効果をあらかじめ定量的に見込むことはできない方策でございます。

節水対策でございます。節水対策コマを水道の蛇口につけることで、水を節約したり、市民の方に対し節水にご協力いただくためのPR活動を行うなど、使う側により節約した水を活用する方策でございます。この方策も利用者の意向に大きく左右されるため、効果を定量的に見込むことは困難な方策でございます。

雨水・中水利用でございます。雨水・中水利用とは、雨水利用の推進、中水利用施設の整備、下水処理水利用の推進を図ることにより、河川水、地下水を水源とする水需要の抑制を図る方策でございます。これらの方策により、水を確保する方法がございますが、この方策も利用者の意向に大きく左右されるため、効果を定量的に見込む

ことは困難な対策でございます。

これは、先ほど治水のほうでも説明しましたが、評価軸と評価の考え方ということで、これも別紙で大きなペーパーがございます。それを見ていただきたい。これも、いままで説明した14の案につきまして、目標、コスト、実現性、持続性、地域社会への影響、環境への影響の評価を実施しております。また、利水の正常な機能の維持については、具体的な評価軸は示されておきませんが、この評価軸や考え方を参考に評価することになりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。

【田原市長（鈴木克幸）】 いま治水、利水両方とも代替案、いろいろな手法があるという説明の中で、今回「複数の対応案の考え方について」という議題ですが、これは要は豊川に対して、豊川を考える場合、この中でどういったものが考えられるかという絞り込みをするわけですか。要は全部当てはまらないわけですね。豊川になじむような、あるいは合うような代替案、これをどう組み合わせでどうなんだという検討をするわけですか、ちょっと質問ですけれども。

【事務局】 おっしゃるとおりでございます。豊川になじむ案となじまない案とありますので、なじむ案につきまして組み合わせをしまして対策案をつくっていくというのが検討の中身でございます。

【田原市長（鈴木克幸）】 その代替案と、今度ダム建設の費用と比べ合わせるわけですか。

【事務局】 いま建設段階であるダム事業における今後必要となる残事業費と複数の代替案との比較をして、ここにあります評価軸と評価の考え方に基づいて総合的に評価していくということです。

【田原市長（鈴木克幸）】 そうしますと、整備局さんとしていまのこの代替案、対応方策の中で豊川水系を考えた場合に、どういったものを検討しておられるかという、そういった絞り込みみたいな作業はされたんですか。

【事務局】 今まさに検討中ございまして、次回以降に説明させていただきたいと思っております。

【田原市長（鈴木克幸）】 そうしますと、今後の検討の場というのは、それをもと

にして議論していくという、そういう考え方でよろしいですか。

【事務局】 はい、おっしゃるとおりでございます。

【進行役（河川部長）】 ほかにご質問ご意見ございますか。

【愛知県副知事（片桐正博）】 一つお願いでございます。いまコスト比較を代替案についてこれからやっていくということでございますけれども、コスト比較をするに当たってご留意いただきたいと思うのは、その代替の施設を整備する費用は当然のことですけれども、いま生活再建のレベルまでやっていただいておりますけれども、その生活再建に要する費用であるとか、あるいは県なり下流の市町が中心になって、地域振興のための各種施策をダム事業を前提にやろうとしているわけですけれども、それに係るコストも当然代替施設の整備の費用にオンさせて比較をしないと、公平な比較にならないと思っておりますので、ぜひそういう費用も代替施設の整備費に合わせてオンして比較をすべきじゃないかというふうに思っておりますので、よろしく願いをしたいと思えます。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。ダムの中止に伴って発生するコスト、それから社会的影響等についても評価軸に記載があり、検討するということになっております。これにつきましては、次回以降でお答えさせていただきたいと思っております。

それから、中止の場合の水源地域において必要となる費用であります。設楽町における地域振興策につきまして、現時点でお話しできるものはございませんが、本省と相談していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【豊橋市長（佐原光一）】 多分コストが最終的には評価する上で一番の要素になってくると思っておりますけれども、安全もコストも、例えばこの地域でいうと霞堤があつて、霞堤があればいいじゃないかという話があつたりしたときに、洪水のときそこに住んでいる人にとっては多くの財産が失われたり、安全に対しても、安全かどうかということに対する心理的な不安もあり、みんな安全に対する考え方も違うんです。このため、ダムで守られる安全、堤防で守られる安全、それから霞堤をつくったりとか、遊水池とか、それぞれが安全については感じ方とか、危険度の発生の仕方とか、それぞれパターンが違うと思えます。こういったものがコストとか評価にどう影響するのか。

それから、コストの面でいいますと、例えば河道を掘削されてしまいますと、私た

ち豊橋市の水道というのはまだ地下水、井戸に頼っている部分があります。これが塩水化してしまったりしたら大変大きな損失になります。今でも製造業の人たちの中で、自分で井戸を掘って水を使ったりしている人たちがいますが、そういう人たちの井戸が使えなくなってしまうことがたくさんあります。

また、豊橋には「牛川の渡し」という市道の渡し舟があり、いまは観光資源になっている。そういったところになぜ人が来るかという、あそこの河畔林など、こういった大都市を流れている河川としては非常にめずらしいりっぱな川の景色があるためであり、こういうものが失われるということがあります。いろいろなさまざまな要因があると思われませんが、これらをどうやって評価するのか、とても難しいと思うのですけれども、何かお考えがあったら教えてください。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、定量的に把握する、定量的に比較するというのは非常に難しいものがあるというふうに考えておきまして、実際、中間取りまとめで示されました評価軸と評価の考え方ということで、今後複数の代替案について比較していくのですが、現段階ではどのような形で評価していくかというところについてはまさに検討中でございます。今頂きました様な市長様方のご意見も踏まえながら、今後の評価をさせていただきたいと考えております。

【進行役（河川部長）】 ちょっと補足をいたしますと、その安全度をいろいろな対策案でどう比較するのかというのが前半のご質問だと思います。

これは、この評価軸のところ最初に目標という評価軸がございますが、この目標と設定しているものが実は豊川の河川整備計画の中で位置づけている、治水であれば治水の安全度ということでございます。ですから、その対象としている戦後最大の洪水に対して安全に流すということ、それから霞堤の地域につきましては、その整備計画のときにこの程度まで被害を低減することができるということで地元のほうにご説明をさせていただいた、そのレベルは目標として堅持して、それでほかの方策はそういう目標を維持できるかどうか、そういうようなことでその安全度を確保できるかどうかのチェックをするということになるかと思っております。

【豊橋市長（佐原光一）】 ちょっと一つ心配しているのは、例えば目標として、洪水の量、雨量がありますね。それをわずかに超えたときにそれぞれの対策でどういう被害が起きるのか。それから、場合によっては500年に一度とかの洪水が起きたときにどうなるかということは、対策によって、わずかに超えたときを目標としたレベル

に対して、起こることは類似の評価ができるとしても、大きく超えたときに全滅しちゃうのか、一部の被害ですむのか、人命は大丈夫だけれども、財産は失われるのか、対策の仕方によっては何が起こるかということは大きく違ってくると思うんですけども、その点は何か評価をしていただけるのでしょうか。

【事務局】 評価軸と評価の考え方というのを見ていただきたいんですけども、これの安全度のところの評価の考え方の2つ目の丸ですけども、目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるかということで、そういったご指摘の視点についても評価の中身としてあがっておりますので、こういったことについても評価の一つとして今後評価していくということで考えております。

【田原市長（鈴木克幸）】 私どもはもっぱら利水の面でございますけれども、やはり利水の面だと安定した水というのが一番基本なんですね。特に農業の場合は、植物が必要なときに必要な水を確保する。雨量によって、流れる量によって作物を決めることはないわけですので、必要なときに必要な水が必要、そうなってくると安定度が一番大事なわけです。ですから、それが渇水が続いても水がこないとなると壊滅的な打撃を受けますので、そういう面からいくと利水の面でもやはり安定度というか、安心度というか、そういった視点というのはどうしても必要だと思うんですね。

それからもう一つは、ぜひ後で教えていただきたいんですが、例えば過去平均の雨量で一番必要な8月とか9月とか、その中で例えば何日間渇水になったら壊滅的になるかという、そういったデータもやはり示していかないとなかなか一般の人はわかりにくいものですから、いままでも節水しなくてもぎりぎりのところで、もうそれではいまの調整会議をやろうかと、節水をやろうかという直前に雨が降ってしのいできたということが、もう過去何回も綱渡りをやっているわけですよ。そうすると、農業者にしてみれば毎年毎年不安感の中で農業をやっているわけですので、そうするといま大事な後継者の問題とか、安心して農業ができるかというものは基本的な条件ですので、私が気になるのは、やはり水というのは物事の生きる大前提であって、それがほかのものとの評価をコストだけで考えてもらっては間違われると思うんです。

それからもう一つは、過去10年、100年、最近の雨量を見ても、過去100年に一回というやつが何回も起きているんです。これから渇水がどうなるか、過去のデータも必要ですけども、水の問題というのは将来に対する安定度が必要ですので、そのところをぜひもう少し突っ込んで検討していただきたいと思います。

それから流量の維持の問題も、これもまさに三河湾の浄化につながる話ですので、河川というのは川だけではなくて、流量の維持というのは海に影響することですので、そういった面もぜひ考慮に入れていただければと、こういうふうに思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局】 今の件でございますが、先ほど治水のほうでも説明をさせていただきましたけれども、利水につきましても開発水量とか、いま新規利水で今回必要があるというふうに県のほうからお答え頂いたこの量の確保、それから流水の正常な機能の維持というのは、各地点でそれぞれ必要な流量、河川環境、あるいは既得の用水の安定供給するために必要だという目標がございますので、この目標をやはり同じように確保するためにどんな代替案があるのかということについて、いろいろ対策案を考えたいというふうに考えています。

ただ、いま市長様がおっしゃったような例えば気象の変化とか、そういった概念と、このをどういう形に取り込めるのか、その辺のところは今後少し検討、対策を相談しながら考えさせていただきたいと思ひます。

【豊橋市長（佐原光一）】 流量を増やすという話でもう一つ心配していることがあるのでお話をさせていただきます。

豊川の河口は、ご承知のとおり生きものにとって大変大事な環境であり、漁業もそうなんですけれども、アサリの稚貝の繁殖場になっています。したがって河川事務所でも干潟の造成はやっていただいていますけれども、河道を掘るということができない地形です。そうしますと、上から流れてくる流量を流れやすくすると、下で寸詰まりが起こります。ご承知のとおり、豊川という川は放水路の分水よりも上流までがゼロメートルの地帯で、私ども豊橋市役所のすぐ北側に豊川が流れているが、そこはもう海水がいつも入ってきていて、シジミの産地にもなっているような場所です。そうしますと、基本的には押し出し型ですね、河川勾配があつて流れるというのではないのです。

先ほどちょっと不思議な説明があつたのは、霞堤は急流でと書いてあつたけれども、ここは急流じゃないのに全部霞堤になっております。したがって、本当は霞堤があふれた後、大変なことになるんです。急流のところは河川が下がればすぐ水が引きますが、ここはずっと水が残ってしまいます。全国的には他にも似たところがありますがちょっと通常の霞堤とは違うんです。

いずれにしても押し出しになりますので、全体の水位がすごい勢いで河口部に押し出したとき、特に昨今の台風の大型化があったときに、私どもの湾内では高潮の危険にさらされ何が起きるかわからない。私は個人的には、一度聞かなければわからないなど思うんだけど、大河川でゆったり水が流れている河川に高潮のようなことが起こったときは、アマゾン川や長江であるような逆流というのが起こる危険性が全くないわけではないと思っている部分があります。何が起こるかわからない、そのところは解析をしていただかないと、私たちは安全について議論ができないなど実は思っております。

豊川は、上流域では非常に急流で、新城市の下流くらいから、非常に勾配の緩い川になるということ、それから上流域は実は非常に保水性の弱い地盤の山で囲まれているということ等、豊川の特性をよく踏まえた解析をぜひお願いしたいと思います。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。ご指摘を踏まえまして、今後、複数の代替案の立案、それから評価をやっていきたいと思っております。

【進行役（河川部長）】 補足をさせていただきますが、先ほどの豊橋の市長さんの、その前のご質問のときにも、掘削をしたときに地下水に塩分が入ってしまうというようなお話もございました。代替りの対策案ということで、川を掘り下げてみるということもいま対策案として検討しているところでございますが、それもその豊川としての安定性といえますか、いままさにおっしゃられた、掘ればいいというものでもなくて、その掘ったときにそれがいかに川として安定した形で洪水を流していけるのか、それから掘ったときに例えば地下水等にどんな悪影響があるのか、それからその河口部の閉塞がどうなのか、そういった水利現象をすべて含めた形で、では河道を掘削という対策案の場合はどこまで掘れて、どういうところでどういう限界があって、そのためにはどういう対策方法、例えば護岸をやるかという対策工をしなければいけないか。そういったもので、ではコストはどうなるか、そういった細かい検討作業をいまやっております。

ほかにご質問ご意見等はございますか。

【設楽町長（横山光明）】 検証ということで、これからいろいろ複数の対策案を考えていかれるというご説明でした。その代替案等で示される内容を改めてみんなで議論をしようという場になってくるわけですが、そうした場面が今後何回開催されることになるかよくわかりませんが、最初に水源町の町長として述べさせていただ

きたいと思います。

くどい話になりますけれども、設楽ダム計画は、皆さんご承知のとおり、昭和48年に愛知県からこのダム建設に伴う調査実施をさせてほしいという申し入れがあって、以来、今年で37年間という年月がたったわけであります。この間において、ダム事業者である国土交通省の中部地方整備局、当時の建設省、そして愛知県はもとより、下流受益地域と設楽町、そしてそこに住む町民、こうした方々、さらにはダムにかかわるいろいろな方面からの意見を持ってみえる方、考えを持ってみえる方、こうした多くの皆さん方によって、この計画に対して真剣な議論がされてきた。

そして、こうした紆余曲折の結果、昨年2月5日にそれぞれの機関の代表者によって損失補償基準妥結、さらに建設同意協定というものが結ばれたことは皆さんご承知のとおりですが、こうした長い歴史と経過の中で現在の設楽ダム計画が進められてきたものだと思っているところで、これは皆さんもそう思ってみえると思います。

こうしたところで、いままた改めてこのダムのあり方について再検証をされるという状況になってきているわけですが、設楽ダム計画はただいま申し上げたとおり、36年間の長い時間をかけて、我々設楽町民はこの間本当にこの問題に翻弄され続けて、思い悩んで、そして精神的な苦痛にも耐えて、何とか落ち着いた将来の生活が維持できないかなということも思う中で、この方策等についてもいろいろ議論して協議しながら対応してきたところです。

こうした結果、我々は東三河の発展ということで、また下流域で暮らしてみえる方々の安定した生活を確保して、そのために必要となる水の安定供給と災害から守るためこうした施設、特に上流域で設置するダムは必要なんだということで、重要な施設であろうなということを理解して、これを受け入れて現在まで来たわけです。

こうした状況ができるまでには、何度も申し上げますけれども、ダムの必要性を議論して、またダムによらないで下流域の発展のための水の確保とか洪水対策、そしてそのほかに考えられることがあれば、それによることができないかということを経験から真剣にこのことが議論されて研究され尽くしてきたことであるというふうに認識をしております。多くの設楽町民はこの計画の妥当性を信用してきたわけです。そしてその中で理解をしてきた。実際に私も個人的に過去約20年間、この設楽ダム対策業務に携わる中で、これと向かい合っているいろいろな議論して結論を出したことだというふうに思っております。

それをいままた改めて、国が政策転換を図るという理由でそのあり方を検証されると言われる。我々水源町にしてみれば、何をいまさらというそういう実感があって、もともと国はこうした大きなプロジェクトを計画するに当たっては、当然将来を見据えている色々な問題を提議しながら、さらにそうした中で経済効果ですとか、これをつくるための費用についても検証をして取り組んでこられたはずだと思っておりますが、その時々の方針や情勢でむだであるというふうに加え、そしてこの方針を、そういうことを考えて簡単に変えようという判断をこれからするとなれば、いままで進めてきた国の考えですとか、方針のあり方そのものに疑問を感じるものです。いままで我々に示してきたことは何だったのか、そんな軽いものだったのかということで、私は憤慨し、憤りすら思うところです。

さらに、なぜこうした考えを水源町が持つかと言え、それは先ほども言いましたけれども、長い時間をかけて本当に苦しむ中で、国または県の行政方針として、東三河地域を思ふ政策であろうということで納得をして、これを理解し、ダムを受け入れました。

一方では、我々水源町としても、これによって水没関係者が新しい生活再建に取り組んで、あわせて町の地域振興を図っていこう、そうする中で町の幸せな生活を、町民の幸せな生活を確保しようということで、一生懸命その道を歩もうとしているところでして、その裏には今日までかかってしまったこの時間をむだにしたいくない、そしてまた、いままでのこの時間を取り戻すことはできない。したがって、後戻りすることはできないし、前へ進むしか道はないというふうに思っているからであります。

こうした思いがあるわけですがけれども、一方で、国で改めてこうした再検証を判断されるというのであれば、私はあえてこれを逆により機会であるかなというふうにとらえている部分もあります。それは、中部地方整備局が現在まで作り上げた設楽ダムの基本計画、これはいままでに本当に膨大な費用と時間を費やして、いまここで説明をしていただいたようなことも含めて、全国に類を見ない調査研究を重ねて、さらに改正された現在の現実より一番新しい法律、河川法ですとか環境アセスメント法、こうした法律に基づいて本当に慎重に万全な体制を整えてこの計画をまとめられたであろうと思っております。

さらに、この計画をつくる背景には、何をにおいても水を必要とする、また洪水から守ってほしいとする下流域の方々の思いと、これを理解する上流域、これは設楽町と

が協力体制のもとに計画されたダムであろうと思っております。したがって、この設楽ダムの計画が認められないとするのであれば、いままでかけたものが水の泡となり、それこそむだにお金を使ったということにもなりかねないと思います。

また、ここまで準備した先ほどの計画が認められないということであれば、日本中どここのダムもこの設楽ダムに相当するような検証をやったところはないのですから、この検証には耐えられないであろうというふうにも思っております。

いろいろ申し上げましたけれども、中部地方整備局の関係される皆さんも、いままでこの設楽ダム計画に対して、本当に多くの職員の方々が身を粉にして一生懸命取り組んでおみえになったじゃないですか。こうしたことに自信を持っていただいて、政府そして上部機関や有識者の方々にこの現状をはっきりとお伝えしていただきたいと思います。そして一刻も早くこのダム計画を継続して、東三河の方々や設楽町民が幸せに暮らせるように配慮していただきたいと願うものであります。

以上、厳しいことを申し上げましたけれども、我々水源町としての町民の思いというものも、そういう形で本当に途方にくれる状況に追い込まれておりますので、いま申し上げたことを真剣に考えていただきたいと思います。

以上です。

【進行役（河川部長）】 設楽町長様、ありがとうございました。

ほかにご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

【豊橋市長（佐原光一）】 上流域から非常に真摯なお言葉をいただいて、私ども下流域も実はこの設楽ダムのこれまでのいろいろな話し合いを通じて、その中で豊川を中心として東三河が一緒にいろいろなものに取り組んでいく、その原点として、この設楽ダムを通じて豊川をみんなで守っていくという気持ちでさまざまなことを進めてきております。そして徐々にいろいろなものが成果を上げつつあります。広域医療圏あり、広域商業圏あり、広域で経済の発展を考えよう、広域でいろいろな交流をしよう、こうしたさまざまなことがある意味、この36～7年の設楽ダムの経過の中で、東三河は一体なんだという気持ちを大変強く思っております。

その中で設楽町の方たちは大変大きな決断をしていただき、私たちはそれにこたえていかないといけないと、さまざまな面で取り組んでおります。先月になりますか、東京で私どもは、シティプロモーションをやっておりますが、その中で設楽町の物産も一緒に販売していただいたり、豊橋の駅前に新城市のゆるキャラノンスケ君が来て

くれて応援してくださったり、さまざまな取り組みを通じて、「一緒になって東三河は頑張るんだ」という気持ちが芽生えたことも確かでございます。検証の作業を進める過程の中で、そうした地域の思いをくんでくれとか、そういう予断を持ったことは申し上げません。こういった気持ちがなえることのないようなきちっとした説明をしていただきたいと、そんなことを望んでやみません。

【進行役（河川部長）】 ありがとうございます。ほかにご意見ございませんか。

【豊川市長（山脇 実）】 いまの設楽町長さんのお話、本当に身につまされるお話でありまして、一時政権が変わった当時、八ッ場ダムが取り上げられて、周辺の関係地域の皆さんが大変ご苦労されているということ、テレビで皆さんも見られたと思うんですけれども、そのようなことがこの設楽ダムでも起きているということを我々が自覚する必要があると思います。

いまもう23%の進捗率ということが出ておりますけれども、やはり23%であろうと50%であろうと、進めてきた以上、これをまた見直しというようなことは、やはり水源地の皆さんの心意気というか、それについて冒涇するようなことだと思えます。ですから、この検証は検証としてするにしても、やはりこのダムの推進はぜひやっていかなければというふうに改めて感じた次第でございますので、一言加えさせていただきます。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見ございませんか。

【新城市副市長（矢野浩二）】 新城市は受益地域であり、かつダムが建設されますと直下流の地域を抱える地域ということでございますけれども、本市のほうからは2点ほどお話をさせていただきたいと思えます。

第1点目としましては、いま設楽町長さん始め各市長さんのお話がございましたように、ダム建設の推進についてでございます。ご案内のとおり、平成13年の流域委員会から、上流域の森林整備、河川環境の改善、あるいは三河湾の浄化、あるいは上下流、東三河一帯の植生を条件とする提言を受けて、県整備計画の中で位置づけられて動き出しております。

設楽ダムの建設につきましては、その治水、利水の機能というのも十分検討されている状況、それに加えてこの地域にとって、東三河の流域の一体的な発展という視点からやはり必要不可欠という認識を持っております。これは、今日は代理で出ておりますけれども、新城市長の意味も確認してございます。

また、上流域、下流域、あるいはちょうど中間地点の新城におきましても、いずれの市町村におきましても、その認識というのは一致していると考えております。その前提で、本市も含めましてダムに関連するさまざまな施策が同一歩調で進んでいる。それに加えまして、いま設楽町長さんのお話にもございましたように、水没地の住民の気持ちということを考えますと、現状において、特に本市におきましては、旧鳳来町でございますけれども、2つのダムを抱え、その水没者の生活再建というのも経験した立場でございます。

そういった立場からも、やはりできる限りすみやかに住民の不安を取り除くということが最優先の課題ではないのか。このダムも含めまして、公共事業、あるいは市町村の住民サービス等につきましては、やはり住民との信頼関係がベースで円滑な事業が進んでいるというようなことも踏まえまして、すみやかな検証と結論を導いていただきたいということを要望したいと思います。

それから2点目としましては、先ほども言いましたように、本市はダムの直下流に当たる地域を抱えるということに関してでございますが、ダムの目的の一つが流水の正常な機能の維持ということで、本市の中でも頻繁に瀬切れが発生する区域ということもございます。こういった地域は、河川の流量が確保されるという期待が大きいわけですけれども、一方で、直下流の関係者からは、その直下流の河川環境への影響というのを心配する声が上がっているということも事実でございます。流水量の確保ということにとどまらず、やはり直下流における河川生態系や景観の保全など、環境の影響について、今後検証される際に最大限のご配慮をいただきたいというふうに思います。

以上、2点でございます。

【進行役（河川部長）】 ありがとうございます。

【蒲郡市長（金原久雄）】 100%豊川用水に依存しております蒲郡であります、この会議が地方公共団体からなる検討の場ということですが、私どもは何を検討するのかということがよくわからない。いま説明があったわけですね。それで、私たちの立場はもうやってくれということですから、これから政府にお願いに行くとかそういうことならあれですけれども、私ここにいっても意味がないような気がするんですけども、いかがでしょうか。

【事務局】 非常にお答えづらいですが、いまのこの検証の場でございますが、行政、

各地方公共団体の皆様にお集まりいただいているというのは、これはいまの中間取りまとめというか、本省で行いました12回にわたる会議の中で、この地方公共団体の皆様というのは、その当該地域の土地利用とか、それから住民の安全等、さまざまな公益に基づいて責任を有しておられる、こういう方々と密接な連携をとってこの検証をするようにということになっておりますので、そういう意味でぜひご理解をいただい
てご意見をいただきたいと思ひます。

【蒲郡市長（金原久雄）】 先ほど設楽町長さんが本当に万感を込めておっしゃったと思うんですけども、もう検討し尽くされて設楽ダム
の現在というものがあるものですから、また私たちがここへ来て検討するという、それもゼロからやろうというのに、私
たちを入れてもむだじゃないですかということです。

【事務局】 なかなかお答えしづらいのですが、私どもとしましては、ぜひこの場にご参加
いただき、いまの市長さんのご発言もその一つかと思ひますが、ご見解をお聞かせいただければ
ということでございます。

【進行役（河川部長）】 事務局からの説明にちょっと補足をさせていただきます。

これまで設楽町長様を始め、各市長様からもご意見を承りました。そういうこれまでのいろいろな歴史的な経緯の中で、いまからの検証作業ということに対してのご意見を賜ったところでございますが、そういうこれまでのいろいろな経緯があつた中ではございますが、いま一度、予断を持たない形でこの検証作業に取り組む、こういう方針の中で、地域の防災への責任を持っておられる市長様、町長様、さらには利水面で責任を持っておられる市長様、町長様、そういう地域の方々にご意見を賜りながら、この検証作業を進めさせていただくということをお願いをいたした次第でございます。

どうかご理解のほど、よろしくお願ひいたします。

ほかにご意見ご質問等、全体を通して何かございましたらお受けいたします。

【愛知県副知事（片桐正博）】 最後にお願ひをしておきたいと思ひますけれども、代替案のご紹介がありましたけれども、これを取り混ぜていろいろコスト比較をするという作業は、かなり事務量としては大変なことはわかりますけれども、これは一刻も早く整理していただき、次回はいつ開催されるかわかりませんが、次回なるべく早くそういった場でコスト比較の議論をしていけるように、作業量としては大変かもしれませんが、ぜひよろしくお願ひをしたいということをお願ひをしておきたいと思ひます。

それから、こういった議論は、今日もマスコミの方が大勢いらしておりますけれども、非常に注目を浴びておりますので、議論の中身がよくわかるような整理、資料のつくり方にしても、一般の方にもわかっていただけるような、ご理解いただきやすいような整理をしていただいて、わかりやすい形の資料にさせていただくことをお願いしておきたいと思います。

それから最後に、これはこの場の議論としてはふさわしくないとは思いますが、先ほど設楽町長さんのご発言にありましたように、地元の皆様は大変なご不安があると思います。ですから、いま国でできることは生活再建のレベルはできるわけですので、生活再建のレベルの事業を、特に具体的には用地買収になろうかと思っておりますけれども、できるだけ早くご対応いただけるように、今日のこの検討の場の議論としてはふさわしくないかもしれませんが、あわせてこの点は強くお願いをしておきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見ご質問等ございますか。

それでは、以上で7番目までの議事につきましては終わらせていただきます。

8. その他

【進行役（河川部長）】 最後の議事になりますが、8番「その他」につきまして、事務局から説明させていただきます。

【事務局】 それでは、今後の予定につきまして、少しご紹介させていただきたいと思っております。

次回の検討の場につきましては、複数の対策案がある程度取りまとまった段階で開催したいというふうに考えております。今後、関係市町さんとの日程調整を行った上で、第2回の検討の場を開催していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

【設楽町長（横山光明）】 確認というか、今後の予定の中で、いまお聞きすると、これからの流れというのは、24年度予算に反映できるようにという冒頭のお話がありましたけれども、そういう目標を持ってこの会議を進めていくというふうに考えていてよろしいのでしょうか。

【事務局】 基本的に目標の時期ですとか、それから具体的なスケジュールについて

は、申しわけないですけれども、はっきりここでお示しすることはちょっと難しいと
考えているんですけれども、基本的にはすみやかに進めていくということで考えてお
りますので、よろしくご協力のほうをお願いしたいと思います。

【設楽町長（横山光明）】 先ほどお話をさせていただいた中にもあるんですが、生
活を毎日している人たちは不安がっておりますし、高齢化も進んでいるというような
状況もありますものですから、検証作業という名のもとに時間をかけながら慎重に、
そしてきちっとした対応をされるということはもちろん十分理解をしておりますけれ
ども、一方ではいま申し上げたような現状がありますので、そういうことをきちっと
くんでいただいて、早急にこれを進めていただきたいと、こう思いますのでよろしく
お願いします。

【中部地方整備局長（富田英治）】 今日、愛知県の副知事、あるいは市町の首長
の皆様から、この設楽ダム建設事業に関するご地元のいろいろな思い、あるいは検証
作業に対するいろいろな視点でございますとか、あるいは進め方の問題等につきまし
てもご意見をいろいろいただきました。

また、いろいろ皆様方にご迷惑をおかけしながら進めていくことになるかもしれな
いのですけれども、先ほど申し上げましたように、できるだけすみやかにこの検討作
業は進めてまいりたいというふうに思っております。

また、今日いろいろいただきましたご意見等につきましては、私どもに対する叱咤
激励をいただいたと思っております。今後ともこの検証作業の実施につきましては、
よろしくご協力のほどをお願いしたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

【進行役（河川部長）】 それでは、次回の日程調整につきましては、また事務局か
ら連絡をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

以上で議事をすべて終了させていただきます。皆様方、ご意見をいただきまして、
また議事運営にご協力をいただきましてありがとうございました。

それでは、事務局のほうお願いいたします。

【事務局】 今日はどうもありがとうございました。

今日の資料につきましては、29日以降に私どものホームページで資料を公表させて
いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。また、会場の皆様も会議の運

當にご協力いただきましてありがとうございました。

本日はどうもありがとうございました。